

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.22
平成24年11月19日

第7回弥富市なぎなた大会行われる！

11月17日（土）の午前中、弥富市総合社会教育センターにおいて第7回弥富市なぎなた大会が行われました。この大会には、桜小なぎなた部に所属する本校児童や弥富中なぎなた部に所属する本校の卒業生が多く出場していました。どの児童生徒も普段の練習の成果を発揮できていました。

張り詰めた空気が流れるアリーナの中で、精神を集中させ、凛とした表情で試合に臨んでいました。

試合結果も好成績を残し、個人でMVPに輝く児童もいました。そして、何よりも、「**礼に始まり、礼に終わる**」という日本の武道の精神を忘れず、勝ち負けもさることながら、礼儀・態度面でも素晴らしかったと思います。



「江戸しぐさ」

今日は「江戸しぐさ」というお話をします。

江戸というのは、今の東京の150年から400年くらい前の呼び名です。今の東京と同じように日本の中心でたくさんの方が住んでいました。しぐさというのは、何かするときの動きや態度のことです。つまり、「江戸しぐさ」というのは、江戸に住んでいた多くの人たちがお互いに住みやすくするための動作や態度のことです。では、江戸しぐさをいくつか紹介します。



傘かしげ

まず、「傘かしげ」です。雨の日に道を歩いていて、自分の傘から落ちる雨で相手をぬらしたりしないように、お互いに傘を人のいない外側に斜めにかたむけてすれ違うことです。ぬれた傘を家の中にもちこんだりしないというのも、今に通じる雨の日のエチケットです。

次に、「七三歩き」です。道路を歩くとき、自分は道の三分（3割）を歩き、道の七分（7割）を急ぐ人や荷物を運ぶ車のためにあけておくというものです。

三つ目は、「うかつあやまり」。足を踏まれたとき、踏んだ方はもちろん謝りますが、踏まれた方も「こちらこそついうっかりしていました」と、一言話し、その場の雰囲気良くするしぐさです。

四つ目は、「こぶし腰浮かせ」です。座っているときに誰かが来たら、みんながこぶし一つ腰をうかせてつめて、その人も座れるようにすることです。電車の中でつめずに座っている人がいます。駅で人が乗って来たら、こぶし一つ分腰を浮かせてつめれば、一人が座れる空間ができます。

まだまだ、たくさん『江戸しぐさ』があります。江戸しぐさは、江戸に暮らす人々の他の人に対する「思いやり」や「心遣い」であふれていた動作や態度のことです。

大切なことは、自分さえよければいいという身勝手な考えでなく、他の人のことを思いやり、さりげない心遣いを大切にしながら行動をしようということです。

ところで、この江戸しぐさは何歳までに身につけたと思いますか？ 6歳までに身につけたのだそうです。つまり、今の小学校1年生までに身につけていたのです。このような「江戸しぐさ」をさりげなくできる人が、江戸では「いき（意気）な人」（上方では「粋」と書くが多少意味が違います。）であるとされていました。（逆に「江戸しぐさ」を身に付けていない人は「野暮」（やぼ）と見られていました。）

校長先生も以前、朝、車で出張に出かけるとき、西門の引き戸門扉を6年生の男子が、校長先生が車から降りる前に気付いて開けてくれました。これも素敵な江戸しぐさですね。

みなさんの中にも「江戸しぐさ」のように相手のことを思いやって行うしぐさが、学校生活の中でもできている人が多いと思います。そんなときは校長先生は、「桜っ子しぐさ」とよびたいです。「江戸しぐさ」に負けないたくさんの「桜っ子しぐさ」が学校中にあふれてほしいものです。